

R C V

No.

71

Red

Cross

Volunteer

2019. 1.

つながる
&
つづける

Contents

- 特集1 つながろう！「新たな支え合い」を目指して
- 特集2 私のボランティアの履歴書

つながろう！

in大阪「屋根のシート張り講習会」

「新たな支え合い」を目指して

大阪の赤十字ボランティアは、2018年6月の大阪府北部地震の際に災害ボランティアセンターの運営支援をとおして「様々な団体と協働できる関係づくりが大切だ」と痛感しました。その後、更に台風21号による住家被害が重なり、今なお被害に苦しむ被災者が存在しています。赤十字ボランティアとして「自分たちができること」を増やすために「屋根のシート張り講習会」を計画。ネットワークを活かして実現した講習会取材してきました！



©毎日新聞社
(https://mainichi.jp/graphs/20180619/mpj/00m/040/001000g/1)



うちの力で、地域ぐるみで、復興するんや！

背景

地震や台風の被害により多くの住家の屋根が破損！屋根の下の生活を守るためにブルーシートで応急処置をする必要がある。

But

対応できる業者やボランティアが不足！

課題

修繕まで長期化
張替え作業が不可欠

他府県のNPO団体の
対応がほとんど

(いつ支援が得られなくなるかわからない)

シート張りニーズ
に対応するために

地元
対応できる
人材や知識を



シート張りの正しい知識と技術の普及が重要や！

① おおさか災害支援ネットワーク^{※1} (OSN) を通じて

② いろいろな想い・協力のかたち・・・

主催

日本赤十字社大阪府支部
日本赤十字社大阪府支部堺市地区本部・中区地区
社会福祉法人堺市社会福祉協議会
大阪府立大学ボランティア・市民活動センター

協力

災害救助活動NPOレスキューアシスト
日本警察消防スポーツ連盟
震災をつなぐ全国ネットワーク
おおさか災害支援ネットワーク
堺市土師校区自主防災会

支部×地区
社協×大学^{※2}
特奉×地域奉×青奉
赤十字でのクロス！

他団体とのクロス！
互いが得意とする分野を共有
して効果的な被災者支援を！

みんなで
普及して
いこう！

活動の輪
を広げて
いこう！

場を提供
するよ！

技術を伝
えるよ！

正しい知識があれば
長持ちする安全性の
高い支援ができます！

③ 屋根に登らなくてもできること

- ・シート張りのニーズ調査
- ・必要資機材の準備
- ・屋根の下での補助活動、安全管理
- ・被災者が支援を求めやすい環境づくり

What's

支援を求めやすい環境？

災害ボランティアセンター
の存在を知ってもらう！
自分たちが「できること」
を地域ぐるみで共有する！



講師：NPOレスキューアシスト
「武ちゃんマン」こと中島武志さん

※1 災害発生に備え、平時から互いに活動を知り、災害をテーマにした学びと情報交換を行うネットワーク。
※2 特奉：特殊赤十字奉仕団、地域奉：地域赤十字奉仕団、青奉：青年赤十字奉仕団の略。

スキル研修

必要な資機材の使用方法



シートの張り方/瓦の種類・置き方

脚立の
安全な
活用法

ブルーシート

土嚢袋

ロープ

厚さは
#3000^{※3}
以上

白以外
UV対応
国産

トラロープ

ロープの適切な結び方

固定方法

土嚢袋
or
茨木方式^{※4}



参加者の声

災害ボランティアセンターの運営支援をした際に、屋根のシート張りのニーズがとても多いことを実感しました。依頼があった時には業者を案内していましたが、件数が多く対応が難しいこともありました。そうした中で、自分たちでシート張りのニーズに応えられないかと考え、支部に講習会の実施を相談しました。多くの府民にシート張りの知識を普及するため、他団体と連携し今回の開催に至りました。知識や技術が学べた講習会は、大変有意義でした。例えば、長持ちする

シートの厚さは#3000以上ということを知っているだけでも、ボランティアセンターで適切な資材の確保ができるようになります。

講習会では、様々な団体から知識やスキルを教えていただきました。自分たちも赤十字として炊き出しなどの知識や技術がありますが、赤十字だけで活動するのではなく、そうした知識を伝え、地域の色々な団体や住民と連携し協働していくことが重要だと感じました。



idea

次は赤十字が
スキルを伝える
側に！



本村仁さん
(赤十字防災ボランティア)

地域の防災意識を高めるため、青年・学生赤十字奉仕団では高校生を対象に防災研修会を開催しています。その活動をよりよくする材料づくりになればと思い、今回の講習会に参加しました。

今回、継続的な張替えのニーズを知り、基礎的な知識や屋根に登らなくてもできる活動がたくさんあることを学んだので、この知識を私たち学生目線で高校生にも伝えていきたいと思えます。

脚立の立て方一つにしても、とても勉強になる講習会でした。今回の内容を自分の団の中で広めていきたいです。また、活動を広げるためにも、積極的に参加してくれる人を増やすことも必要だと感じました。

技術は身体で覚えなければ、いざという時に身体が動きません。日ごろから地域の防災訓練などにも積極的に参加するよう、地域のみなさんの意識を変えていく活動も必要だと考えています。



idea

SNSの「#ボランティア」
で連携の輪が広がるかも！

守口千智さん (青年赤十字奉仕団)



idea

毎年の自主防災訓練
にも取り入れてみたい！

野村勉さん (堺市中区赤十字奉仕団)

私のボランティアの履歴書

MY PERSONAL HISTORY in RED CROSS VOLUNTEER



さかもと ひろあき
坂本 宏明 さん

1962生まれ。小学生まで東京やイギリスで過ごす。神奈川県内の高校で副校長を務めるかたわら、中学時代に会った青少年赤十字をきっかけに、赤十字以外にも様々なボランティア活動を長年にわたり継続している。「趣味は赤十字」と言う坂本さんに、これまでの活動とその醍醐味を聞いてみた。

1975 青少年赤十字と運命の出会い



中学の先生のすすめで青少年赤十字 (JRC: Junior Red Cross)に出会う。古切手集め、募金活動、養護学校との交流、視覚障害支援活動などを実施。



うお〜!!!
青少年赤十字との出会いで、ボランティア魂に火がついた!



13歳
青少年赤十字トレーニングセンター参加

17歳
JRC神奈川県連絡協議会会長 ※1

20歳
赤十字救急法指導員資格取得

25歳
支部指導講師 ※2。研修で国際人道法を担当

26歳
休眠中の神奈川県赤十字国際奉仕団を再結成

26歳
ITスキルを活かした神奈川県情報赤十字奉仕団結成

1981 青年赤十字奉仕団委員長



大学で神奈川県青年赤十字奉仕団に入団。全国の奉仕団協議会の運営や、献血キャンペーン、国際交流の通訳など幅広く活動。



中学時代からレク指導してました!

神奈川県視覚障害支援赤十字奉仕団にも入団し、点訳開始。ハイキング、キャンプ、クリスマス会のレクボランティアなど、がむしゃらに活動!

オーストラリア赤十字社主催のユースキャンプに日本代表で参加!



AUSTRALIAN RED C
SOUTH AUSTRALIAN DIVISION



神奈川県青少年協会海外派遣団副団長としてアウシュビッツも訪問



※1 JRC神奈川県連絡協議会：県内のJRC加盟校の会議体
※2 支部指導講師：赤十字ボランティアの指導スタッフとして日本赤十字社各都道府県支部から委嘱されたボランティア



1996 国際人道法の本格的な普及

学校でも視覚障がい者を意識したスキー授業を実施



東日本大震災では、本社防災ボランティアセンターを全国の赤十字防災ボランティアリーダー等が中心となり運営。ボランティア間の連絡手段を構築し、被災県の支援体制を確立した。



国際人道法の普及は赤十字活動の中心。授業、研修会の開催や赤十字国際委員会(ICRC)が開催する国際人道法模擬裁判、国際協力機構(JICA)のイベントで人道法を普及する。



40歳
雪上安全法
指導員資格取得

47歳
東日本大震災で
防災ボランティアとして本社や
ICRCとの連絡調整担当

47歳
かながわ赤十字
情報プラザ援助
奉仕団設立

34歳
国際人道法講師
や関連図書の執筆など本格的な
普及実践

中学生で赤十字に出会って以来、国内外を問わず、地域や行政、JICAなどを通じ多様なボランティア活動を継続してきた坂本さん。とりわけユース世代のボランティア活動の意義や地域における役割を重要視し、ユースの活動支援や環境整備に奔走している。



「赤十字の魅力は、正しいことを面と向かって言えること。赤十字には確かな技術と、実践に基づいた理念がある」

坂本先生の掲示板 ボランティアに対する思い

ボランティアを続けている理由

やめる暇がないから(笑)。やればやるほど成果も出るし、生活リズムに完全にボランティアが入っています。期待されていると感じるので、やめてはいけなと思っています。

今後力を入れたい活動

今は、ボランティア研修の企画や講師、国際人道法の普及などを中心に活動していますが、様々な支援現場の最前線に出たいという夢もあります。

これからボランティアをはじめめる若者へ

日本は海外ほどボランティアが定着しておらず、活動を始めるハードルが高く感じるかもしれない。でも勇気を持って踏み込み、必要な役割を担ってほしい。

Voices of Youth



赤十字活動を全力で楽しみ、周りを楽しませる姿勢はいつも私のお手本です。
福島青年赤十字奉仕団・橋本裕太



赤十字のことを語る先生からは溢れんばかりの赤十字への愛を感じます！
大阪府青年赤十字奉仕団・岡田悠希



赤十字のボランティアであり、気づきを与える指導者であり、7原則の体現者であり、インスピレーションが湧くきっかけとなってくださる方であり、同じ志を持つ仲間です。
神奈川県赤十字国際奉仕団・田中友美乃



「現存するアンリー・デュナン」若者に期待し、誰よりも変わりゆく赤十字を楽しみにしている方です。
赤十字ユース委員会・川上紗良



ボランティアとして、指導者として、幅広い視点から学ばせてくださる方です。
大阪赤十字安全事業指導奉仕団・土井慶信

今回は長年ボランティアを続けている坂本さんの記事を担当させていただきました。私はまだまだボランティアの駆け出しなので、坂本さんが赤十字の活動に臨む気持ち・姿勢などを知り、とても勉強になりました。今回の記事を読んでボランティアに興味をもってくれる人が一人でも増えたら幸いです。

(明治学院大学・太田)



初めて取材にいかせていただきました。実際に災害の被害に遭われた方々がどの様にして復興に力を入れているのか肌で感じる事が出来ました。これからも少しでも伝わりやすいように頑張ります。(明治学院大学・小野澤)

坂本さんにインタビューさせていただきました。坂本さんは自分の生活にボランティアを取り入れ、周りを赤十字色にすることで、色々な人にボランティアの扉を開いていると感じました。この記事から、ボランティアをやりたい、続けていきたいと思っていただければ幸いです。

(日本大学・鈴木)

シート張り講習会で大阪に伺った際、シートが張られている家を見かけました。災害が起きた時に大切なことは、防災とその後の対処です。防災はあらかじめできますが、対処方法は災害が起きてみないとわかりません。そのため、過去の災害から私達が学び、それを共有していくことが大切です。この記事を通して一人でも多くの方に、防災などについて考えていただけたら嬉しいです。

(明治学院大学・中島)

コラム

トレンドにあった組織づくりを



「会議へのユースボランティアの参加や発言が増えたのは、とても嬉しいことです」と語ってくれたのは、第10回アジア・大洋州地域会議（於：フィリピン・マニラ）に参加した田中友美乃さん（神奈川県赤十字国際奉仕団）。

51の国と地域の赤十字・赤新月社の代表やボランティアが集まり「現代社会におけるボランティア」や「効果的なパートナーシップ」など、様々な課題について議論しました。

多様化する現代のボランティアは、奉仕団などの登録制ではなくプロジェクト単位で活動する傾向が好まれていること、台頭する他団体とは「競合」する場合と「協働」する場合を整理してパートナーシップを促進することなど、各社には現代のトレンドに合った組織づくりが求められています。

グローバルな視点を持ちながら、地域社会に根ざしたボランティア活動を展開していきましょう！



↑ 率先して発表する田中さん（真ん中）



みなさんの声 大募集

RCVでは、全国のボランティアの活動のヒントとなるような、優良活動を紹介しています。

よりよい情報誌を作っていくために、日頃から活動しているみなさんからのご意見を、ぜひお聞かせください！

※ご要望に添えない可能性もありますのでご了承ください。

① 今号の特集へのご意見・ご感想

② こんな特集が見たい！

「こんな活動がしたい！どこかでしていないかな」。知りたい活動はありませんか？

③ 活動を全国に伝えたい！

掲載したい活動がありましたら、ぜひお知らせください。

④ 次号から、RCVをメール配信します！ご希望の方は送信先のメールアドレスをご記載ください。

受信されるメールアドレスのサーバー容量によっては、データを受信できない場合がございます。また、閲覧される媒体によっては、閲覧ができない場合もございますので、あらかじめご了承ください。※パソコン/スマートフォンによる閲覧を推奨。

上記をご記入のうえ、
rc-volunteer@jrc.or.jp までお送りください



←こちらからも
ご回答いただけます！
QRコードを読み込んで
ください。

赤十字ボランティアへの参加について

日本赤十字社の活動は、全国のボランティアによって支えられています。あなたも、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを行動に移してみませんか？

赤十字ボランティアへの参加は、日本赤十字社各都道府県支部・施設で受け付けています。

WEBページで

赤十字 ボランティア

検索



Facebook
Twitter

でも逐次情報を更新しています！

○編集・発行
日本赤十字社 事業局 パートナーシップ推進部
ボランティア活動推進室 青少年・ボランティア課
電話：03-3437-7083 (ダイヤルイン)
ホームページ：http://www.jrc.or.jp/volunteer